

保健所および保健センターにおける乳幼児を対象 とした歯科保健事業の成果について

米満正美 川口陽子 大原里子 品田佳世子 佐々木好幸 岡田昭五郎

要約：東京都中央区内の区立保育所、区立幼稚園の検診時点で満6歳の幼児について、う蝕罹患状態とその幼児の管轄保健所である中央保健所での現在までの歯科保健事業への参加状況および受けたう蝕予防処置の内容との関連を調査した。また、岩手県平泉町の町立保育所と幼稚園の検診時点で満5歳の幼児について同様にう蝕罹患状態と町の保健センターで実施している歯科保健事業への参加状況およびう蝕予防処置の内容との関連性を調査し、以下の結果を得た。

○中央区

- 1) 検診受診回数とう蝕予防処置（フッ素塗布、フッ化ジアンミン銀塗布）回数は保育所児より幼稚園児の方が多く受けていた。
- 2) う蝕罹患状態は、保育所児と比べて幼稚園児で高い傾向にあった。
- 3) 3歳から現在までの検診受診回数と現在の乳犬歯、第1、第2乳臼歯での一人平均dmf歯数および一人平均dmf歯面数の間には統計学的に有意な負の相関が認められた。

○平泉町

- 1) う蝕予防処置回数および検診受診回数を見ると、1歳半までのフッ素塗布回数では保育所児の方が有意に多く、3歳から現在までのフッ化ジアンミン銀塗布回数では逆に幼稚園児の方が多かった。その他のう蝕予防処置、検診受診回数では明らかな差は認められなかった。
- 2) う蝕罹患状態は保育所、幼稚園の間で差は認められなかった。
- 3) 3歳までは勿論のこと、3歳以降でもフッ素塗布はう蝕予防に有効であった。

見出し語：乳歯う蝕予防、保健所、保健センター、歯科保健事業

乳幼児を対象とした公衆歯科衛生活動は1歳6ヶ月児歯科健診、3歳児歯科健診を中心に保

健所、保健センターなどで実施されている。その実態は昨年度の本研究班で報告した。^{1, 2)}

東京医科歯科大学歯学部予防歯科学教室

我が国におけるこのような公衆歯科衛生活動は世界的に見ても類のない立派な制度であるが、

我が国の幼児のう蝕罹患状態は決して良好とは言えない状況である。そこで、熱心に乳幼児の歯科保健活動を行ってきた保健所、保健センターの事例を Retrospective に調査分析することで今後の乳幼児の歯科保健のあり方を検討するために本調査を実施した。

対象および方法

表1に示す東京都中央区内の区立保育所(1園)、および区立幼稚園(6園)に通園している検診時点で満6歳の幼児(保育所児64名、幼稚園児117名)について、平成5年9月から11月にかけて視診型の歯面別歯科検診を実施した。この検診を受けた者の管轄保健所である中央保健所での歯科保健事業への参加状況および受けたう蝕予防処置内容について保健所に保管してある資料をもとに調査、分析を行った。

また、岩手県平泉町の2つの保育所と1つの幼稚園の検診時点で満5歳の幼児(保育所46名、幼稚園32名)について平成5年5月に同様な検診を実施し、町の保健センターで行っている歯科保健事業への参加状況およびう蝕予防処置の内容についてそれらの記録が記載されている母子健康手帳より調査した。なお、平泉町では1歳6ヶ月児および3歳児の歯科検診は歯牙単位で、中央区の場合は歯面単位で記録されていることと、対象児の年齢が中央区で満6歳、平泉町で満5歳であるので分析項目が若干異なる。

結果

表2に中央区における各調査項目(変数)の幼稚園、保育所別に見た平均値を示す。検診受

診回数とう蝕予防処置(フッ素塗布、フッ化ジアンミン銀塗布)回数は保育所児より幼稚園児が多く受けており検診受診回数とフッ素塗布回数では統計学的に有意な差が見られた。一方、う蝕罹患状態に関する項目では保育所児に比べて幼稚園児で高い傾向にあり、3歳以降のDE咬合面と隣接面の増加う蝕歯面数では統計学的に有意であった。

岩手県平泉町の5歳児での幼稚園、保育所別にみた各調査項目(変数)の平均値を表3に示す。う蝕予防処置および検診受診回数では東京都中央保健所と同様に保育所児の方が少ない傾向にあるものの際だった差は認められなかった。

3歳時、5歳時のう蝕罹患状態を示す各項目でも幼稚園児、保育所児の間に差は認められなかった。表4は中央保健所、6歳児全体での現在CDEの一人平均dmf歯数、一人平均dmf歯面数、3歳以降のDEの一人平均隣接面増加dmf歯面数、そして一人平均咬合面増加dmf歯面数と年齢区別のう蝕予防処置回数、検診受診回数の相関を見たものである。4つのう蝕に関する項目と1歳半から3歳の間と全期間を通してのフッ化ジアンミン銀塗布回数間に有意な正の相関関係が認められ、フッ素塗布回数については3歳以降のDE咬合面増加dmf歯面数との間に1歳半から3歳の間、全期間の塗布回数でやはり正の相関が認められた。統計学的に有意な負の相関が認められたのは、3歳から現在までの検診受診回数と現在CDEの一人平均dmf歯数および一人平均dmf歯面数の間であった。

同様な関係を幼稚園、保育所別にみたのが表5、6である。幼稚園においてはう蝕の項目と

フッ化ジアンミン銀塗布回数の中で正の相関がみられたもののフッ素塗布回数との関連性は認められなかった。保育所では1歳半から3歳でのフッ素塗布回数と3歳以降のDE隣接面および咬合面の増加dmf歯面数との間で正の相関がみられた。

表7は平泉町における5歳児全体での現在一人平均dmf歯数、一人平均dmf歯面数、DE隣接面一人平均dmf歯面数、DE咬合面一人平均dmf歯面数と年齢区分別のう蝕予防処置回数、検診受診回数の相関を示している。4つのう蝕に関する項目とフッ素塗布回数（1歳半までのを除いて）の間に統計学的に有意な負の相関関係が認められた。フッ化ジアンミン銀塗布回数は1歳から3歳の間での回数と4つのう蝕指標との間で正の相関関係を示した。

表8、9に平泉町5歳児の幼稚園、保育所別に分けてみたものを示す。表4の全体でみた場合と同様の傾向を示すが、特に幼稚園ではフッ素塗布回数と4つのう蝕指標との相関係数は高く、統計学的にも高度に有意であった。

考察

近年、乳歯う蝕は減少してきているが都市部で少なく地方で多い傾向にある。また乳歯う蝕は3歳を過ぎると急激に増加する傾向がある。そこで今後の乳歯う蝕対策に資するため、今回、都市部（東京都中央区、6歳児）と地方（岩手県平泉町、5歳児）の幼児のう蝕罹患状態と保健所および保健センターでの歯科保健事業との関連を検討した。

平泉町では今回把握できた幼児は町全体の9

割以上であり、また、町の保健センターでの歯科保健事業への参加率は東京都中央区と比べると極めて高い。う蝕予防処置のフッ素塗布は自発的な希望者のみでなく処置を受けるように町で積極的に勧めている。従って、う蝕罹患状態はフッ素塗布を多く受けているものほど良好な結果を示している。3歳児までのフッ素塗布は勿論のこと、3歳以降においてもフッ素塗布はう蝕予防に有効であった。しかし、中央区と比べるとう蝕罹患状態は決して好ましい状態ではなく、フッ素塗布回数を増やすと共に保健指導の内容の充実を図るべきである。

中央区での調査で歯科保健指導とう蝕予防効果の関連性、とりわけフッ素塗布回数とについて認められなかった理由としては以下のことが挙げられよう。1) う蝕の発生が低いこと。2) 地域には保健所のみでなく他に多くの歯科保健、医療施設があることで対象児のう蝕予防に関する事項を十分にモニタリングできなかったこと。3) 保健所でのフッ素塗布回数が少ないこと。

従って、現在のう蝕罹患状態をさらに改善するためには3歳以降の検診回数が多いとう蝕は少ない傾向にある（川口ら²⁾も指摘している）ことから、検診（保健指導、刷牙指導を含む）の効果はある程度上がっており、低年齢時からのフッ素塗布をもっと取り入れることが望まれる。とりわけ、3歳以降に急増する第1、第2乳臼歯の隣接面う蝕にはフッ素塗布などの予防処置を強力に推し進めることが必要となる。

また、保育所児と幼稚園児のう蝕罹患状態の比較では保育所児の方が良好であった。その理由としては、幼稚園では園児の管理は午前中の

みがほとんどであり午後は各家庭での育児にまかせられるが、保育所は朝8時頃から夕方5時くらいまで規則正しい生活、とりわけ食事に関してはそうであるためにう蝕が少ないと考えられる。従って、このような結果を生かした保健指導の充実も大切である。

なお、フッ化ジアンミン銀塗布は初期う蝕の進行抑制を目的として行われることから、1次予防には使われない。従って、中央区においても平泉町においてもう蝕歯(歯面)数とフッ化ジアンミン銀塗布回数との間には正の相関が現れるのは当然である。しかし、中央区、平泉町の両方において相関係数がdmftと比べてよりう蝕の広がりを表すdmfsの方が小さい傾向にあることは一旦う蝕になった歯でその広がりが抑制されていることを示していると言えよう。

今後の課題としては、今回の調査結果をより明確にするために、何時、どのような処置を行

ったら最も効果的であるかを対象児を十分にモニタリングして明らかにしていくことであろう。

参考文献

1. 米満正美、川口陽子、大原里子、佐々木好幸、岡田昭五郎：乳幼児の歯科保健の事後評価システムの確立について、厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」平成4年度研究報告書：250-255, 1993
2. 米満正美、川口陽子、大原里子、佐々木好幸、岡田昭五郎：1歳6ヶ月児歯科健診と3歳児歯科健診の連携について、口腔衛生会誌, 43:412-413, 1993
3. 川口陽子：乳幼児の歯科保健指導の有用性に関する研究、-保健所の歯科保健事業への参加と3歳児のう蝕罹患について-、口病誌, 58:650-669, 1991

表. 1 対象者数

		幼稚園	保育所	合計
東京都中央区	男	49	28	77
(6歳児)	女	68	36	104
岩手県平泉町	男	15	30	45
(5歳児)	女	17	16	33

表 2 幼稚園、保育所別にみた各変数の平均値（東京都中央区、6歳児）

		被験者数	平均値	標準偏差	有意性
1歳半から3歳までのフッ素塗布回数	幼稚園	117	0.29	0.89	*
	保育所	64	0.09	0.43	
3歳から6歳までのフッ素塗布回数	幼稚園	117	0.35	0.92	**
	保育所	64	0.06	0.30	
総フッ素塗布回数	幼稚園	117	0.66	1.46	***
	保育所	64	0.16	0.51	
1歳半から3歳までのフッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	117	0.34	0.75	n. s.
	保育所	64	0.22	0.65	
3歳から6歳までのフッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	117	0.68	1.00	n. s.
	保育所	64	0.48	0.73	
総フッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	117	1.07	1.43	n. s.
	保育所	64	0.70	1.14	
1歳半までの検診受診回数	幼稚園	117	2.80	1.67	*
	保育所	64	2.20	1.62	
1歳半から3歳までの検診受診回数	幼稚園	117	2.93	1.96	***
	保育所	64	1.47	1.44	
3歳から6歳までの検診受診回数	幼稚園	117	2.62	2.89	***
	保育所	64	0.91	1.67	
総検診受診回数	幼稚園	117	8.36	5.27	***
	保育所	64	4.58	3.53	
現在CDEのdmft	幼稚園	117	4.32	3.62	n. s.
	保育所	64	3.64	3.45	
現在CDEのdmfs	幼稚園	117	9.51	10.19	n. s.
	保育所	64	7.52	9.17	
3歳以降のDE隣接面増加dmfs	幼稚園	117	2.80	3.71	***
	保育所	64	1.52	2.58	
3歳以降のDE咬合面増加dmfs	幼稚園	117	2.59	2.83	***
	保育所	64	1.23	2.18	

*: p < 0.05, **: p < 0.01, ***: p < 0.001

表 3 幼稚園、保育所別にみた各変数の平均値（若手県平泉町、5歳児）

		被験者数	平均値	標準偏差	有意性
1歳半までのフッ素塗布回数	幼稚園	32	0.03	0.18	*
	保育所	46	0.17	0.38	
1歳半から3歳までのフッ素塗布回数	幼稚園	32	0.97	0.82	n. s.
	保育所	46	0.72	0.91	
3歳から現在までのフッ素塗布回数	幼稚園	32	0.59	0.67	n. s.
	保育所	46	0.44	0.78	
総フッ素塗布回数	幼稚園	32	1.59	1.27	n. s.
	保育所	46	1.33	1.52	
1歳半までのフッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	32	0.00	0.00	n. s.
	保育所	46	0.02	0.15	
1歳半から3歳までのフッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	32	0.53	0.72	n. s.
	保育所	46	0.50	0.72	
3歳から現在までのフッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	32	1.00	0.88	*
	保育所	46	0.52	0.72	
総フッ化ジアンミン銀塗布回数	幼稚園	32	1.53	1.11	n. s.
	保育所	46	1.04	1.15	
1歳半までの検診受診回数	幼稚園	32	1.09	0.59	n. s.
	保育所	46	1.35	0.71	
1歳半から3歳までの検診受診回数	幼稚園	32	3.84	1.35	n. s.
	保育所	46	3.65	1.40	
3歳から現在までの検診受診回数	幼稚園	32	2.94	1.24	n. s.
	保育所	46	2.44	1.09	
総検診受診回数	幼稚園	32	7.88	2.39	n. s.
	保育所	46	7.44	2.19	
現在dmft	幼稚園	32	7.06	5.16	n. s.
	保育所	46	7.67	5.45	
現在dmfs	幼稚園	32	13.81	13.41	n. s.
	保育所	46	14.98	14.61	
現在のDE隣接面dmfs	幼稚園	32	3.84	3.54	n. s.
	保育所	46	3.83	4.06	
現在のDE咬合面dmfs	幼稚園	32	4.22	2.89	n. s.
	保育所	46	4.28	3.02	

*: p < 0.05, **: p < 0.01, ***: p < 0.001

表 4 各変数間の相関係数行列(東京都中央区、6歳児、全体)

	1. 6 F	1. 6 S	1. 6 E	3. 0 F	3. 0 S	3. 0 E	現在-F	現在-S	現在-E	Total F	Total S	Total E
現在CDEの dmft	-0.023 (n. s.)	0.072 (n. s.)	0.032 (n. s.)	0.057 (n. s.)	0.305 (***)	0.003 (n. s.)	-0.090 (n. s.)	0.130 (n. s.)	-0.223 (**)	-0.024 (n. s.)	0.261 (***)	-0.105 (n. s.)
現在CDEの dmfs	-0.021 (n. s.)	0.137 (n. s.)	0.036 (n. s.)	-0.024 (n. s.)	0.264 (***)	-0.027 (n. s.)	-0.098 (n. s.)	0.075 (n. s.)	-0.208 (**)	-0.049 (n. s.)	0.210 (**)	-0.107 (n. s.)
3歳以降のDE 隣接面増加dmfs	0.014 (n. s.)	0.182 (*)	0.153 (*)	0.135 (n. s.)	0.157 (*)	0.273 (***)	-0.030 (n. s.)	0.128 (n. s.)	-0.034 (n. s.)	0.067 (n. s.)	0.194 (**)	0.137 (n. s.)
3歳以降のDE 咬合面増加dmfs	0.025 (n. s.)	0.081 (n. s.)	0.161 (*)	0.218 (**)	0.188 (*)	0.327 (***)	0.056 (n. s.)	0.205 (**)	0.004 (n. s.)	0.173 (n. s.)	0.250 (***)	0.179 (*)

():有意性 * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$

- 注) 1. 6 F : 1歳半までに受けたフッ素塗布回数
 1. 6 S : 1歳半までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 1. 6 E : 1歳半までに受けた検診回数
 3. 0 F : 1歳半から3歳までに受けたフッ素塗布回数
 3. 0 S : 1歳半から3歳までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 3. 0 E : 1歳半から3歳までに受けた検診回数
 現在-F : 3歳から現在までに受けたフッ素塗布回数
 現在-S : 3歳から現在までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 現在-E : 3歳から現在までに受けた検診回数
 Total F : 現在までに受けた全フッ素塗布回数
 Total S : 現在までに受けた全フッ化ジアンミン銀塗布回数
 Total E : 現在までに受けた全検診回数

表 5 各変数間の相関係数行列(東京都中央区、6歳児、幼稚園)

	1. 6 F	1. 6 S	1. 6 E	3. 0 F	3. 0 S	3. 0 E	現在-F	現在-S	現在-E	Total F	Total S	Total E
現在CDEの dmft	-0.034 (n. s.)	0.075 (n. s.)	0.018 (n. s.)	0.022 (n. s.)	0.375 (***)	-0.065 (n. s.)	-0.126 (n. s.)	0.088 (n. s.)	-0.327 (***)	-0.071 (n. s.)	0.268 (**)	-0.198 (*)
現在CDEの dmfs	-0.032 (n. s.)	0.152 (n. s.)	0.005 (n. s.)	-0.008 (n. s.)	0.323 (***)	-0.079 (n. s.)	-0.133 (n. s.)	0.064 (n. s.)	-0.305 (***)	-0.093 (n. s.)	0.235 (*)	-0.195 (*)
3歳以降のDE 隣接面増加dmfs	0.005 (n. s.)	0.183 (*)	0.166 (n. s.)	0.089 (n. s.)	0.185 (*)	0.237 (**)	-0.059 (n. s.)	0.104 (n. s.)	-0.146 (n. s.)	0.017 (n. s.)	0.195 (*)	0.061 (n. s.)
3歳以降のDE 咬合面増加dmfs	0.014 (n. s.)	0.061 (n. s.)	0.136 (n. s.)	0.174 (n. s.)	0.235 (*)	0.282 (**)	0.032 (n. s.)	0.198 (*)	-0.116 (n. s.)	0.129 (n. s.)	0.270 (**)	0.085 (n. s.)

():有意性 * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$

- 注) 1. 6 F : 1歳半までに受けたフッ素塗布回数
 1. 6 S : 1歳半までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 1. 6 E : 1歳半までに受けた検診回数
 3. 0 F : 1歳半から3歳までに受けたフッ素塗布回数
 3. 0 S : 1歳半から3歳までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 3. 0 E : 1歳半から3歳までに受けた検診回数
 現在-F : 3歳から現在までに受けたフッ素塗布回数
 現在-S : 3歳から現在までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 現在-E : 3歳から現在までに受けた検診回数
 Total F : 現在までに受けた全フッ素塗布回数
 Total S : 現在までに受けた全フッ化ジアンミン銀塗布回数
 Total E : 現在までに受けた全検診回数

表 6 各変数間の相関係数行列（東京都中央区、6歳児、保育所）

	1. 6 F	1. 6 S	1. 6 E	3. 0 F	3. 0 S	3. 0 E	現在-F	現在-S	現在-E	Total F	Total S	Total E
現在CDEの dmft	0.000 (n. s.)	0.000 (n. s.)	0.016 (n. s.)	0.153 (n. s.)	0.134 (n. s.)	0.051 (n. s.)	-0.054 (n. s.)	0.214 (n. s.)	-0.086 (n. s.)	0.095 (n. s.)	0.215 (n. s.)	-0.013 (n. s.)
現在CDEの dmfs	0.000 (n. s.)	0.000 (n. s.)	0.050 (n. s.)	0.101 (n. s.)	0.108 (n. s.)	-0.036 (n. s.)	-0.081 (n. s.)	0.073 (n. s.)	-0.082 (n. s.)	0.037 (n. s.)	0.109 (n. s.)	-0.030 (n. s.)
3歳以降のDE 隣接面増加dmfs	0.000 (n. s.)	0.000 (n. s.)	0.020 (n. s.)	0.273 (*)	0.026 (n. s.)	0.187 (n. s.)	-0.124 (n. s.)	0.143 (n. s.)	0.133 (n. s.)	0.155 (n. s.)	0.107 (n. s.)	0.148 (n. s.)
3歳以降のDE 咬合面増加dmfs	0.000 (n. s.)	0.000 (n. s.)	0.099 (n. s.)	0.318 (*)	0.008 (n. s.)	0.208 (n. s.)	-0.119 (n. s.)	0.146 (n. s.)	0.080 (n. s.)	0.195 (n. s.)	0.099 (n. s.)	0.168 (n. s.)

():有意性 *: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$

注) 1. 6 F : 1歳半までに受けたフッ素塗布回数
 1. 6 S : 1歳半までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 1. 6 E : 1歳半までに受けた検診回数
 3. 0 F : 1歳半から3歳までに受けたフッ素塗布回数
 3. 0 S : 1歳半から3歳までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 3. 0 E : 1歳半から3歳までに受けた検診回数
 現在-F : 3歳から現在までに受けたフッ素塗布回数
 現在-S : 3歳から現在までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 現在-E : 3歳から現在までに受けた検診回数
 Total F : 現在までに受けた全フッ素塗布回数
 Total S : 現在までに受けた全フッ化ジアンミン銀塗布回数
 Total E : 現在までに受けた全検診回数

表 7 各変数間の相関係数行列（岩手県平泉町、5歳児、全体）

	1. 6 F	1. 6 S	1. 6 E	3. 0 F	3. 0 S	3. 0 E	現在-F	現在-S	現在-E	Total F	Total S	Total E
現在dmft	-0.021 (n. s.)	-0.160 (n. s.)	-0.007 (n. s.)	-0.437 (***)	0.397 (***)	-0.157 (n. s.)	-0.408 (***)	0.028 (n. s.)	-0.167 (n. s.)	-0.487 (***)	0.250 (*)	-0.184 (n. s.)
現在dmfs	-0.065 (n. s.)	-0.118 (n. s.)	-0.129 (n. s.)	-0.427 (***)	0.270 (*)	-0.212 (n. s.)	-0.408 (***)	-0.094 (n. s.)	-0.243 (*)	-0.490 (***)	0.089 (n. s.)	-0.292 (**)
現在のDE 隣接面dmfs	-0.142 (n. s.)	-0.115 (n. s.)	-0.202 (n. s.)	-0.383 (***)	0.292 (**)	-0.199 (n. s.)	-0.404 (***)	-0.032 (n. s.)	-0.161 (n. s.)	-0.479 (***)	0.148 (n. s.)	-0.263 (*)
現在のDE 咬合面dmfs	-0.128 (n. s.)	-0.166 (n. s.)	-0.072 (n. s.)	-0.343 (**)	0.257 (*)	-0.108 (n. s.)	-0.426 (***)	0.030 (n. s.)	-0.116 (n. s.)	-0.462 (***)	0.165 (n. s.)	-0.146 (n. s.)

():有意性 *: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$

注) 1. 6 F : 1歳半までに受けたフッ素塗布回数
 1. 6 S : 1歳半までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 1. 6 E : 1歳半までに受けた検診回数
 3. 0 F : 1歳半から3歳までに受けたフッ素塗布回数
 3. 0 S : 1歳半から3歳までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 3. 0 E : 1歳半から3歳までに受けた検診回数
 現在-F : 3歳から現在までに受けたフッ素塗布回数
 現在-S : 3歳から現在までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 現在-E : 3歳から現在までに受けた検診回数
 Total F : 現在までに受けた全フッ素塗布回数
 Total S : 現在までに受けた全フッ化ジアンミン銀塗布回数
 Total E : 現在までに受けた全検診回数

表 8 各変数間の相関係数行列（岩手県平泉町、5歳児、幼稚園）

	1. 6 F	1. 6 S	1. 6 E	3. 0 F	3. 0 S	3. 0 E	現在-F	現在-S	現在-E	Total F	Total S	Total E
現在dmft	0.175 (n. s.)	0.000 (n. s.)	-0.087 (n. s.)	-0.569 (***)	0.313 (n. s.)	-0.328 (n. s.)	-0.490 (**)	-0.092 (n. s.)	-0.251 (n. s.)	-0.603 (***)	0.130 (n. s.)	-0.336 (n. s.)
現在dmts	0.111 (n. s.)	0.000 (n. s.)	-0.186 (n. s.)	-0.568 (***)	0.262 (n. s.)	-0.334 (n. s.)	-0.501 (**)	-0.243 (n. s.)	-0.307 (n. s.)	-0.616 (***)	-0.024 (n. s.)	-0.393 (*)
現在のDE 隣接面dmts	0.060 (n. s.)	0.000 (n. s.)	-0.194 (n. s.)	-0.534 (**)	0.275 (n. s.)	-0.310 (n. s.)	-0.521 (**)	-0.218 (n. s.)	-0.186 (n. s.)	-0.612 (***)	0.005 (n. s.)	-0.319 (n. s.)
現在のDE 咬合面dmts	0.049 (n. s.)	0.000 (n. s.)	-0.126 (n. s.)	-0.566 (***)	0.268 (n. s.)	-0.314 (n. s.)	-0.539 (**)	-0.101 (n. s.)	-0.149 (n. s.)	-0.644 (***)	0.094 (n. s.)	-0.285 (n. s.)

():有意性 * :p<0.05, ** :p<0.01, *** :p<0.001

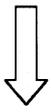
- 注) 1. 6 F : 1歳半までに受けたフッ素塗布回数
 1. 6 S : 1歳半までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 1. 6 E : 1歳半までに受けた検診回数
 3. 0 F : 1歳半から3歳までに受けたフッ素塗布回数
 3. 0 S : 1歳半から3歳までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 3. 0 E : 1歳半から3歳までに受けた検診回数
 現在-F : 3歳から現在までに受けたフッ素塗布回数
 現在-S : 3歳から現在までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 現在-E : 3歳から現在までに受けた検診回数
 Total F : 現在までに受けた全フッ素塗布回数
 Total S : 現在までに受けた全フッ化ジアンミン銀塗布回数
 Total E : 現在までに受けた全検診回数

表 9 各変数間の相関係数行列（岩手県平泉町、5歳児、保育所）

	1. 6 F	1. 6 S	1. 6 E	3. 0 F	3. 0 S	3. 0 E	現在-F	現在-S	現在-E	Total F	Total S	Total E
現在dmft	-0.100 (n. s.)	-0.212 (n. s.)	0.019 (n. s.)	-0.355 (*)	0.455 (**)	-0.044 (n. s.)	-0.359 (*)	0.157 (n. s.)	-0.092 (n. s.)	-0.422 (**)	0.356 (*)	-0.068 (n. s.)
現在dmts	-0.134 (n. s.)	-0.155 (n. s.)	-0.116 (n. s.)	-0.344 (*)	0.277 (n. s.)	-0.135 (n. s.)	-0.356 (*)	0.035 (n. s.)	-0.194 (n. s.)	-0.423 (**)	0.175 (n. s.)	-0.220 (n. s.)
現在のDE 隣接面dmts	-0.209 (n. s.)	-0.142 (n. s.)	-0.211 (n. s.)	-0.308 (*)	0.303 (*)	-0.136 (n. s.)	-0.348 (*)	0.100 (n. s.)	-0.154 (n. s.)	-0.416 (**)	0.234 (n. s.)	-0.232 (n. s.)
現在のDE 咬合面dmts	-0.197 (n. s.)	-0.214 (n. s.)	-0.047 (n. s.)	-0.213 (n. s.)	0.250 (n. s.)	0.024 (n. s.)	-0.366 (*)	0.145 (n. s.)	-0.092 (n. s.)	-0.364 (*)	0.220 (n. s.)	-0.046 (n. s.)

():有意性 * :p<0.05, ** :p<0.01, *** :p<0.001

- 注) 1. 6 F : 1歳半までに受けたフッ素塗布回数
 1. 6 S : 1歳半までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 1. 6 E : 1歳半までに受けた検診回数
 3. 0 F : 1歳半から3歳までに受けたフッ素塗布回数
 3. 0 S : 1歳半から3歳までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 3. 0 E : 1歳半から3歳までに受けた検診回数
 現在-F : 3歳から現在までに受けたフッ素塗布回数
 現在-S : 3歳から現在までに受けたフッ化ジアンミン銀塗布回数
 現在-E : 3歳から現在までに受けた検診回数
 Total F : 現在までに受けた全フッ素塗布回数
 Total S : 現在までに受けた全フッ化ジアンミン銀塗布回数
 Total E : 現在までに受けた全検診回数



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:東京都中央区内の区立保育所、区立幼稚園の検診時点で満6歳の幼児について、う蝕罹患状態とその幼児の管轄保健所である中央保健所での現在までの歯科保健事業への参加状況および受けたう蝕予防処置の内容との関連を調査した。また、岩手県平泉町の町立保育所と幼稚園の検診時点で満5歳の幼児について同様にう蝕罹患状態と町の保健センターで実施している歯科保健事業への参加状況およびう蝕予防処置の内容との関連性を調査し、以下の結果を得た。

中央区

- 1) 検診受診回数とう蝕予防処置(フッ素塗布、フッ化ジアンミン銀塗布)回数は保育所児より幼稚園児の方が多く受けていた。
- 2) う蝕罹患状態は、保育所児と比べて幼稚園児で高い傾向にあった。
- 3) 3歳から現在までの検診受診回数と現在の乳犬歯、第1、第2乳臼歯での一人平均 dmf 歯数および一人平均 dmf 歯面数の間には統計学的に有意な負の相関が認められた。

平泉町

- 1) う蝕予防処置回数および検診受診回数を見ると、1歳半までのフッ素塗布回数では保育所児の方が有意に多く、3歳から現在までのフッ化ジアンミン銀塗布回数では逆に幼稚園児の方が多かった。その他のう蝕予防処置、検診受診回数では明らかな差は認められなかった。
- 2) う蝕罹患状態は保育所・幼稚園の間で差は認められなかった。
- 3) 3歳までは勿論のこと・3歳以降でもフッ素塗布はう蝕予防に有効であった。